

広報・PIチーム 会議録

会議の名称	川口市自治基本条例策定委員会 第4回広報・PIチーム
開催日時	平成20年5月20(火)18時から20時
開催場所	川口市職員会館 2階 講座室B
出席者	(リーダー)伊田(昭)委員 伊田(清)委員、永瀬委員、堀和委員
会議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・運営調整部会の結果報告 ・広報について ・PI(対話集会、アンケート)について
会議資料	運営調整部会提出資料
発言内容	<p>運営調整部会の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報については概ね賛同してもらった。 ・PIについては、内容を列挙したものを提案したため、負荷に対する不安が大きく、部会に持ち帰るとする部分があった。また、説明時間があまりなく、中途半端に終わってしまった。 ・広報・PIはやるのが幅広くかつ多い。本当にできるのかという意見が多かった。 ・優先順位づけと、的を絞る必要がある。また実施のタイミングも考えなければいけない。 ・部会に提案できる形にまとめたい。 ・時間が不足するなら条例策定期間を延ばせばよい。 ・事務局側はどう考えているのか。 <p>事務局：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案ボリュームに圧倒されたのではないか。 ・広報に関しては、問題はないと思う。 ・まず、このボリュームをスケジュールに落とす作業と、現状で可能なものを整理するべきだ。「出来ているもの」「すぐにでも出来るもの」「引き続き検討をするもの」と分けてはどうか。 ・PIについてのイメージが伝わっていなかった。次回提案の時には、イメージをつかみやすくするために、具体的な案で流れが見えるものを提出する必要がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・まずは広報活動に力を使いたいと思っている。 ・PIについては6月20日までに各部会で検討することになった。具体的な案作りをしておきたい。 ・今日の話合いを元に部会に持ち帰って検討するということが、実際

に部会は20日までに2回しかない。編集委員会の内容だけで手一杯ではないか。PIの方法も、具体的な案もないまま部会に持ってこられても困るということだ。

事務局：

- ・20日までというのはあくまでも編集委員会のスケジュールだ。広報・PIチームが20日に縛られることはない。7月11日まででよい。

- ・昨日の運営調整部会では20日までと受け取れる感があったので、20日までとして、各部会に再確認をしたい。7月11日の運営調整部会に諮るには20日に意見をもらい、検討結果をまとめる必要がある。それは事務局をお願いしたい。

広報について

- ・今日は、広報にしぼって議論をしたいと考えている。

広報かわぐちについて

事務局：

- ・7月は一段（5分の1ページ）確保した。8月以降については編集会議で決まるため、どれだけという約束はできないが、毎月スペースの確保は約束してもらっている。載せる内容によって、必要に応じて増減することになるだろう。

- ・原稿の締め切りは今月5月末だと聞いている。

事務局：

- ・そのとおりだが、最終校正というわけではない。

- ・7月分は豆知識という形でのせるとして、中味をどうするか。

事務局：

- ・皆さんから豆知識の候補案を送ってもらっているが、これまで広報してきた内容のものが多く、皆さんの視点から「自治基本条例のこのことについて伝えたい」というものはないか。また、インパクト重視とするのか、内容重視とするのかなども考えて欲しい。市の広報誌として許される範囲内で対応していく。

- ・広報・PIチームは載せたいものを今週中に伊田リーダーまで連絡する。その結果を事務局と調整することとしたい。

町会・自治会への周知について

事務局：

- ・6月5日の町会役員合同会議で、「後日まちかど懇談会を開催する節にはよろしく申し上げます。」という形で、企画財政部長が説明をする。配布する資料は、広報かわぐち5月号の8ページ目とする。

- ・回覧用チラシを作成し、6月5日以降に配布することを検討する。
- ・チラシは定例役員会で説明後回覧される。配布されるタイミングとしては月末の広報かわぐちが来るところだ。
- ・対話集会の日にちが決まった時点で、回覧するという手もある。
- ・回覧は広報かわぐちとは存在価値ちがう。数十ページの中の一部と、単独のもの。回覧はしたほうが良いだろう。
- ・公民館だよりに載せるという手もある。

事務局：

- ・自治振興課に確認するが、配布できる時期の問題がある。印刷と郵送の問題も考慮してもらいたい。

- ・市民パートナーステーションで「マンションコミュニティガイドブック」を配布するそうなので、それに便乗してチラシを配布したい。6月中に750部くらいだ。

事務局：

- ・いきなりのお話でなんともいえない。もう少し内容を確認していただきたい。

市民団体への周知について

- ・同時期に配りたいが、こちらについても、いつまでに何部用意するのかなどを確認してからとする。送付の方法としては、市民パートナーステーションからの郵送に便乗するものとする。

策定委員のチャンネル活用

- ・各委員がチラシを配る話は、運営調整部会では「渡した人から質問があった場合にどう答えたらいいかわからない」などの意見があったかと思う。
- ・「チラシを用意してあるので、必要なら言ってください。」くらいで、各委員には伝えたらいいのではないか。
- ・その前に広報・PIチームの委員が、「策定委員の全員が広報マンであること」を各部会で啓発していく。そうすればチラシを配ろうという気に

なってくるのではないか。

事務局：

- ・そうであれば、その時点で、委員主導でチラシを作成するという方法もある。事務局主導だと、制約が何かとあるため、思い切ったものを作れないことから、そのほうがいいのではないか。
- ・チラシづくりが、各部会で競争みたいなことになる面白い。そのためにはキャッチコピーが早く欲しいところだ。
- ・ツールとして「広報かわぐちチラシ」を用意する。

事務局：

- ・前回話があった、Eメールで利用するためのテキストは事務局で作った。実際に利用するのか。
- ・チラシと同様に各委員が部会で推奨するということとしたい。

ポスターについて

事務局：

- ・ポスターはPIなどをやる時に必要になるが、その具体的な内容が決まってからでなければ意味がない。

PIについて

- ・対話集会のやり方として、町会・自治会単位のもの、市民フォーラムを考えている。
- ・委員にやる気を出してもらうには、6班に分けてというのは難しいだろう。どういう方法なら積極的に活動してもらえるかを考えなければいけない。PIという言葉もなじみがまだ薄い。
- ・スケジュールも考えなければいけない。素案がまとまってからということだろうか。

事務局：

- ・7月17日までに編集委員会から素案のたたき台のさらにたたき台を出して、それをまた部会で検討して、ということになる。
- ・早くても1ヶ月後ということになるのだろう。8月に素案ができることを考えて今から準備していく形か。それを想定しながら、委員にイメージが浮ぶように具体的なやりかたの原案をチームで作っていくということになる。

- ・ 18 連合に対してということはどうか。
- ・ 47 人が 3 班に分かれて 18 連合にというのは理想論で、ムリな話だろう。だいたい、こちらで日程を決めて、そこに出てくれというのもできないはずだ。よっぽど事前に頼み込む必要があるし、それでも、何箇所が首を縦に振るか。
- ・ どうやって人を集めるか、どんな形にするかシミュレーションをしっかりとしていないといけない。
- ・ 1 回目はフォーラムに併せて開催してはどうか。
- ・ 地区別は厳しいだろう。フォーラムにあわせたものを盛り上げていった方がいい。
- ・ 総合計画のまちかど懇談会はどのように行ったのか、経験からなにかないか。

事務局：

- ・ 川口市の強み弱みはなにかなど、条例に直接関係ないところから聴く方法もあるし、素案ができてからそれを説明し、どうですか、と訊く方法もある。大きな集会か小さな集会かでもやり方は違って来るだろう。
- ・ 誰が説明するのも重要だ。
- ・ 行政が説明するのでは、自治基本条例としてはどうなのか。かといっても、委員はだれもやりたがらないだろう。
- ・ 現実的に行政が説明するしかないのではないか。
- ・ 行政が説明する場合には、何班体制なら可能か。

事務局：

- ・ 9 地区なのか 18 連合町会なのか 31 公民館なのかで切り口が違うと思うが、そこはどうなのか。まちかど懇談会は 9 地区だ。
- ・ 行政が説明することが本当によいのか、再度検討をしてもらいたい。
- ・ 周知期間のことも考えなければいけない。地域限定かどうか関係する。
- ・ 集客に関しては、行政と委員会がタイアップしてやっていかなければいけないだろう。
- ・ 集客については委員会、チームで考えて、頑張るしかないだろう。

事務局：

- ・ 公民館なら、その公民館で宣伝するのが一番いいだろう。公民館から利用団体に声かけをするのも効果的だ。そうすると、ポスターの作り

	<p>方も違って来る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区でやると広いので、会場が遠くなる。公民館の方が参加者からすると近くて参加しやすい。口コミも使えるので、効果的だ。委員も近いところに参加すればよい。 ・どの規模がよいのか後日検討する、併せて各部会の意見も聴取する。また、やりかたについても再度検討することとしたい。 ・アンケートについてだが、そこまでできるのかという意見がある。 ・原案をチームで考える。それを集計するのは10月くらいでいいだろう。 <p>事務局：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの内容が現時点で見えてこない。どのようなイメージなのか。 ・素案前に、議会や行政に対しての意見をもらえればと思う。選択式と記述式とを織り交ぜてがいい。 ・なかなか返ってくるものでもないのでアンケートの回収をどうするかは問題だと思っている。 ・アンケートは回収よりも知ってもらうことが大切だと思っている。 <p>事務局：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周知が目的ならば5,000部というのは少ないし効率も悪い。別の方法を考えたほうがよいだろう。 ・アンケートは、それをどう生かすのかを考えた内容にしなければいけない。それならフォーラムやまちかど懇談会に参加した方に、感想を書いてもらった方がよい。 ・単独のアンケートは中止にすることとしたい。フォーラム等でアンケートを取ることにしたい。 ・興味を持たない人にアンケートをお願いしても、無責任な内容で参考になるとは思えない。 <p>事務局：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートは目的や手法を考えて、回答者のことを考えないと回答率は悪くなる。
次回以降日程	平成20年6月2日(月)18時30分から20時30分まで